

流通システム特論

情報化が進むと物流は増えるか減るか

小松 義孝 2002/05/23

[物量が減る]

- ・販売時点情報管理(POS : Point of sales)により需要予測の精度が、電子発注システム(EOS : Electronic Ordering System)により在庫管理の精度が上がってきた。また、これらを合わせることで、リードタイムの短縮にも繋がっている。そして、それに伴い在庫数も少なくすることが可能となり、同時に、無駄な商品(賞味期限切れ・欠品・発注数量の間違い)も少なくなる。

[貨物車が減る]

- ・電子データ交換(EDI : Electronic Data Interchange)や求車求貨システムにより、物流車の積載率が向上し、物流貨物車が削減される。
- ・求車求貨システムにより、今まで空車であった帰り便に荷物を乗せることができる。これにより、帰り便の積載率が向上し、物流貨物車が削減される。
- ・商物分離や B to C の推進により、問屋などの中抜き減少が起こり、それにより物流貨物車が削減される。

[考察]

情報化が進むことにより、物流は増えるか減るかを議論する場合、それぞれどういう状況の基で考えた場合に増えるか、又は減るかを議論しなくてはならない。例えば、POS で考えてみよう。まず、POS が発達することにより、物流が減る事を考える。これは上に挙げた様に、需要の予測精度が向上することにより、無駄な在庫(賞味期限切れ・欠品)が少なくなることから物流が減ると考える。逆に、POS が発達することにより、物流が増える事を考える。これは、POS システムを使うことにより、消費者のニーズが詳細かつ的確に把握できることから、多頻度小口配送が増加すると考え、よって、物流が増えると考え。このように、別の視点から見た場合、同じ POS を用いても、増える場合も考えられれば、減る場合も考えられる。又、ここで注意しなくてはならないのは、両者がどの単位に注目して考えているかということである。前者(物流は減る)では、物量(全体の需要量)と貨物数の両方が減ると言える。しかし、後者(物流は増える)では、貨物車数は増えるが、物流は同じであると言える。そこで、ここでの議論をする場合には、単位をも考えなくてはならない。単位としては、物量、貨物車数の他にも、貨物車の総走行距離などで議論することもできるだろう。